



第26回 越後加茂川夏祭りの大花火大会  
大盆踊りのあとに河川敷から見上げる打ち上げ花火

主な内容

- 小池清彦市長の市政報告  
豪雨による災害と市の対応について ②⑩
- 第26回 越後加茂川夏祭り…………… ⑪⑬
- 総体の結果…………… ⑭⑮
- 歯の健康「むし歯の正体」…………… ⑮
- 加茂の風土記「施粥の実施」…………… ⑯

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう

# 市政報告

加茂市長 小池清彦

七月二十九日(金)と三十日(土)の豪雨による災害と市の対応について

去る、七月二十九日(金)と三十日(土)の豪雨による災害と対応についてでございますが、平成十六年の七・一三水害を上回る豪雨でありましたので、被害が出るのは結果としてやむをえないところでありましたが、重要なことは、事前に、できるだけだけの防災措置をとっておくことと、災害が起こつてからの的確な対応でございます。

まず事前の対策であります。私は、懸案であった市内の大きな急傾斜地の危険箇所について、三条土木事務所と長岡林業事務所をお願いし、協力して、大きな問題箇所と考え

広報かも二月号(No. 656)の訂正について

二ページ下段の一行目から四行目を次のように訂正します。

二月十八日開催の合同会議(神保副知事、及び県央の市町村長、医師会長、救急病院長から成る会議)において各メンバーが合意に達しました。

広報かも五月号(No. 659)の訂正について

六ページ上段中央の一行目から五行目を次のように訂正します。

新しい市議の顔ぶれ

四月二十四日に行われた市議会議員一般選挙は、定数二十人に対して、これを一人上回る立候補者で選挙が行われました。開票の結果、新人二人を含む新議員の当選が決まりました。

られていた所の工事をすべて終了しております。

西加茂その他加茂市全域の豪雨対策につきましても、ポンプ場の新增設や雨水排水路の整備に全力を注いでまいりました。下条川中流域につきましても、県にお願いし協力して、整備を行いました。

また、平成十六年の七・一三水害の時に、即座に、加茂川と下条川の土手の補強とかさ上げを県に要望し、現在実施中であります。

そして、このたび絶大な効果を発揮した、国の信濃川の土手のかさ上げ事業につきましては、信濃川下流河川事務所長と緊密な連携を取って、加茂市の要望はすべてかなえていただきました。須田側の上鶴森のところは土手がなかったのをあらたに土手を築いてもらったことは、大きなヒットであったと思っております。

総じて、このたびの国のいわゆる復緊事業と称する信濃川の堤防のかさ上げにつきましては、このたびの大洪水の水位が、かさ上げ前の堤防の高さを超えておりましたので、これが行わ

れなかったら、越後平野は水没し、新潟市も水没していたかもしれませぬ。

次に、このたびの豪雨災害が起こってからの対応であります。私と市役所の職員諸官がとった行動は、きわめて円滑に行われたと思っております。

また、私が普段から思い抱いております災害に関する基本哲学をはずかしくも実際に行うことになってしまいました。その結果は、私の災害に関する基本哲学が妥当・的確なものであることが証明されたと思っております。

即ち、豪雨災害になったことを知ると、私はまず以って、国の北陸地方整備局の信濃川下流河川事務所長に直接電話で大量の大型排水ポンプ車の派遣をお願いいたしました。所長は、迅速に四台の大型ポンプ車を派遣されました。加茂市では、それを下条の下条川の排水機場のところに二台、加茂川の大正川川口排水機場のところに一台、信濃川の山島排水路川口の排水樋門の

ところに一台、後に須田の上鶴森の信濃川のところの下条の排水機場から移した一台を配置いたしました。その結果は絶大で、千刈・青海町、山島、川西、須田は水浸しにならずに済みました。西加茂の下条地域にたまった水も、下条の下条川への排水機場のところに大型ポンプ車二台を配置したお陰で水が引き、その後冠水することはありませんでした。須田の上鶴森の信濃川のところも大型ポンプ車一台を配置したお陰で、事無きを得ました。

最後まで水が引かなかったのが加茂郷土地改良区一帯の田んぼでした。これは、加茂新田のところにある加茂郷土地改良区の加茂川への排水機場のポンプの力が十分でなかったため、加茂市では、配置した大型ポンプ車で、配置しておかなくてよくなったところのポンプ車のすべてを加茂郷土地改良区のポンプ場のところに配置して排水に努めた結果、その後迅速に水が引き、稲に対する被害をくい止めることができました。

ポンプ車のことはこれ位にいたしまして、私は、加茂市中を駆けめぐったわけでありませんが、私は、「私のいるところが加茂市の災害対策本部である。」と告げて、原則として、遠山秘書、中野顧問、建設課長か斎藤補佐、加茂地域消防署長、消防団長又は消防団副団長が私に同行することとし、指示は災害最前線の現場から出すことにいたしました。

そして同時に、加茂地域消防と消防団の全員に待機を命じ、加茂市内の全建設関係会社に待機を要請いたしました。そして、市民バスとスクールバス合わせて三十二台と運転手に待機を命じました。一方加茂市のホームヘルパー全員は、市内の要援護者の現状把握を行いました。

一方、私は、かねてからNTTドコモと一緒に設置しておいたエリアメールのシステムで必要事項を市民の皆様にお知らせするよう指示を出しましたが、きわめて多くのお宅で、エリアメールを受信できるNTTドコモの携帯電話機を少なくとも一台は持つておられるようでありまし

て、きわめて有効でありました。もともと、下条川のダムの放流のお知らせをしたり、避難指示を出したりした時に、私が「毎分でもエリアメールで度々流すように。」と指示したものですから、あとで市民の皆様から「いやー毎々鳴りましたねー。」などといわれました。

さて、このような指示を出しながら、私はまず上（かみ）の方に向かいました。まず、桜沢と上三区の県道が山水で冠水している現場で見通しをつけながら指示を出した後、上流の小俣橋が落ちているところで、今後の指示を出し、その後下流に向かい、善作茶屋のところ、加茂警察署の交通課長と小柳建設の現場の主任と相談して、そこを交通止めにしました。私は、一車線でも生かせないかと言ったのですが、万一のことを考えると、この一車線も陥没するかも知れないということ、涙を呑んで交通止めにいたしました。しかし、その場で私は、県の三条地域振興局地域整備部長に電話し、大急ぎで復旧させるようにするがそれでよろしいか念を押して了解を取った後、小柳建設の社長さんに電話して、「どうも、通常は実際の工事を始めてから復旧に三日〜四日かかるとのことですが、それではだめで、全力を挙げて半日で一車線通るようにしていただきたい。」と申しました。社長さんは、「大急ぎで工法の検討と材料手配を行ったのち工事に取りかかり、全力を挙げて何とでも三十日の夜一晩で一車線通すようにします。」とおっしゃって、翌三十一日の午前中には一車線を通されました。

さて、善作茶屋の所から私は、下（しも）に向かい新町と耕泰寺のところのがけ崩れ現場で指示を出し、次に矢立のがけ崩れ現場で指示を出した後、下条川上流に向かつて、県道が冠水している所を通り抜けて、下条川に大平川が合流するところの現場を見、電話で三条地域整備部長に下条川改修は、この場所から着手するよう要請いたしました。次に下条のがけ崩れ現場等を見て指示を出し、続いて信濃川の土手を通って、出水状況を観察し、そのあと加茂川の土手で加

茂川下流の出水状況を観察いたしました。

この二十九日は従って、夜に市役所へ帰りましたが、信濃川、加茂川、下条川ともに溢れる状況ではありませんでした。

ところが、この二十九日の夜七時頃に三条地域整備部長から電話があり、このままでは下条川ダムが持ちこたえられないので放流せざるを得なくなりそうだとのことでありました。そこで私は、できるだけ頑張つて放流をしないでいただきたいと要請し、放流する場合でも少なくとも二十分前に加茂市へ通報されるよう約束を取りつけました。そしてエリアメールでその旨度々流し、広報車を出すよう指示いたしました。三条地域整備部では、精一杯持ちこたえた後、翌七月三十日(土)の朝五時二十分に放流を開始いたしました。

七月三十日(土)は、朝に下条川ダムが放流したこともあり、下条川の水位が上昇してきました。そこで現場を見た建設課長からの電話による提言を聞いて、私は午前九時に下条川下流域の中興野、下興野、天神林、境の各地区の百四十

九世帯、六百十七人に避難指示を出しました。

学校を含む市内全公共施設を開けて避難所といたしました。

また、エリアメールでひんばんに通報し、広報車も出し、関係区長へも連絡いたしました。

そして三十二台待機していたバスのうちの十台のそれぞれに運転手が一人と市の職員が一人乗って行き、現地では地元の消防団員も協力して、一軒毎に、しらみつぶしに戸をたたいて回るよう指示いたしました。そして、各戸に次のように伝えるよう指示いたしました。

「まず以て、自分の車で避難して下さい。それをしない方は、このバスに乗って下さい。」と。

即ち、できるだけ大勢の方が短時間で避難するためには、まず以て自分の車で避難していただくことがきわめて効果的でありますので、そのようにいたしました。

次に、自力で避難しない方々に対しては、要援護者のところだけ回るということではなくて、一軒一軒しらみつぶしに回って、バス希望の人

を全員バスに乗せるといふやり方を取りましたが、以上のやり方は、極めて効果的であり、極めてスムーズかつ迅速な避難ができました。

一方で、体が不自由などの理由でバスに乗車できない方がおりましたので、急きよ救急車と介護送迎車を手配し、避難していただくといった対応をいたしました。バスへの実乗車人員は百十九人でありました。

その後、信濃川と加茂川の水位が徐々に上昇してきていることから、念のため十一時十分に須田地区、二十三区、二十四区、二十五区の九百九十三世帯三千七百四十七人に避難準備情報を出しました。その際もエリアメールと広報車による広報を行うとともに、対象区域の区長への電話連絡を行いました。

更に十二時七分、横江、柳町、芝野地区五百十世帯、千六百十二人に対し、追加で避難準備情報を出し、同様の連絡を行ったところであります。

その後、山島の区長さんからの要請で山島地区にバス二台を配車し、十五人の方を市民体育館へ搬送しました。

三十日における避難所の避難者数は、

○下条コミュニティセンター 百八十五人

○下条体育センター 百十人

○加茂市民体育館 八十人

○川西選果場 九十人

であり、その他前日の二十九日における美人の湯、中央コミセン、桜沢福祉センター、七谷小学校への避難者と合わせると全員で五百五十二人となりました。

また、三十日の避難所における対応につきましては、カンパンや缶詰、ペットボトル飲料水や毛布の提供を行いました。多くの皆さまは、七月三十日のお昼前から夕方までの一時的な避難でしたが、住宅が被害にあったことにより、比較的長期間の避難を強いられた方たちには、避難所の提供はもちろんのこと、食事や飲み物、寝具の提供を継続して行いました。また、保健師の巡回による健康面のケアや、各コミュニティセンターと美人の湯の入湯料を無料にするなどの支援を行いました。

提供した食料等は、

カンパン 千九百二十食（実食は四百八十一食）

缶詰 三百十二個

五百ミリペットボトル飲料水 五百八十本

二リットルペットボトル飲料水 四十八本

毛布 百枚（実使用四十四枚）

であります。

なお、下条川の増水は、水位が土手の上から十三センチに達したような状態で、下条の消防団は、土手の上に土のう積みを行いました。

さて、七月三十日（土）には、信濃川の水位が上昇し、国の信濃川下流河川事務所から、田上町の保明の水位計があるところで危険水位を突破したとの情報もたらされました。

この情報に従って信濃川の流域に避難勧告を出した自治体もありました。

しかし、私は、避難というのとは一大事のこととあり、避難勧告というあいまいなことでは、市の言い訳にはなっても、住民の皆様は、どうしたら

よいのかわかりませんので、必ず私が現地を見て、必要とあらば、現地ではつきりと避難指示を出すこととし、まだ十分大丈夫だというときは、避難勧告も避難指示も出さないという方針を貫きつつ、いざという時のために、バスの待機は、しつかりと行いました。

まず信濃川の両岸へ行ってみると、まだまだ水位に十分な余裕がありました。さらに中河口川の土手へ行ってみますと、まだまだ水位に十分な余裕がありました。次に加茂川の土手へ行ってみますと、まだまだ十分な余裕がありました。

そうした状況でしたので、私は、避難指示を出しませんでした。結果は、それで大変よかったです。思っております。

一方、信濃川につきましても、別のところで危険な状況が発生しておりました。

それは、須田の上鶴森の、前は無堤防だったところに、新しく堤防を築いたところで起こりました。この場所は、堤防を築くときに、川側に矢



板を打たなかったためか、信濃川の水が堤防の下を通って、堤防を隔てて反対側に土中より何ヶ所も吹き上がっておりまして。そのため、堤防もろともに破堤する恐れがありました。

私は早速現場に駆けつけました。現場では、信濃川下流河川事務所が二つの会社を差し向けたのですが、そのうち一つの会社は、手が足りなくて、やって来ませんでした。もう一つの会社は、普通の土のうをいくつか持って駆け付けて来ただけで、現場におられた社長さんは、「方々へ行かせられているので、この程度しかできない。」とのことでありました。

こんな状況では、いつ堤防ごと破堤しないとも限りません。私は、一緒にいた中野顧問の提言に基づき、広範囲にシートを敷いて、その上にトン入りの土のう即ちトンパックをたくさん置くしかないと判断し、その場で直ちに信濃川下流河川事務所長に直接電話し、もはや一刻を争うことであり、信濃川下流河川事務所が派遣した会社では、方々に人員と資材をさかれて手に負えないので、加茂市の山内組からトンパック

を作って運んでもらうことを認めていただきたく強く要請し、その了承を得ました。危いところでしたが、山内組が次々にトンパックを作って運んで来て、現場にいた会社と一緒に頑張って、事無きを得ました。

次に、加茂市内の被害箇所ですが、八月末現在の集計で、建設課関係が五百七箇所、農林課関係が五百六十五箇所、その他が三十一箇所合わせて一千百三箇所あります。この中で、国の補助事業と県の補助事業の要件には当たらないものが九百二十九箇所もあります。しかし、それは放ってはおけませんので、加茂市は財布をはたいてでも、この九百二十九箇所については、すべて加茂市の負担で、応急復旧を行う決意でやってきております。

被害総額は、八月末現在の見込みで、十五億七千万円程になると予想されますが、国や県の補助事業の査定等で変わる場合もあります。このうち、加茂市の負担額は、三億四千万円程になるものと見込まれます。この三億四千万円という

額は、加茂市の貯金をほとんど使ってしまうほどの金額ですが、こういう時こそ、加茂市民のお幸せを第一に考えて、全力を挙げて復旧に力を注ぐ決意でございます。

また、住家の住宅被害は、全壊二棟、半壊一棟、一部損壊三棟、床上浸水八棟、床下浸水百三十棟、非住家の建物被害は、全壊四棟、大規模半壊一棟、半壊一棟、一部損壊一棟、浸水百四十五棟となっておりますが、国の被災者生活再建支援法による支援金や同法の県、市の上乗せ制度による支援金、また災害救助法の住宅応急修理制度の補助金等を利用し支援してまいりたいと思っております。

そのほかに、農作物の被害があります。加茂市は、共済掛金の二割補助を実施しておりますが、被害が大きかった信濃川の河川敷につきましては、道や農地の復旧、融資の支援等、できうる限りの支援を行っております。

次に、西加茂地区の雨水排除につきましては、

西加茂雨水排水ポンプ場が平成十七年度に完成し、運転を開始しており、管渠整備につきましても新栄町地内において、都市下水路と稲荷面横線の水路を結ぶ縦線の大動脈である重要雨水幹線を新設し、更に、稲荷面横線の排水路への吐き口も同様に改修工事を行い、旭町地内には国道四〇三号に管径六百ミリの管渠をバイパス管として敷設することにより、道路の冠水、家屋の浸水等の解消に努めてまいりました。

今後は、まず以て、このたび大型ポンプ車二台の助けを借りなければならなかった下条の排水機場で、現在四百ミリのポンプ二基があるのに加えて、七百ミリのポンプ一基を今年度と来年度の予算で早急に増設したいと考えております。

# 第26回越後加茂川夏祭り



八月十四日、越後加茂川夏祭りの会場には約四万人の皆さんから来ていただき、大盆踊り大会や大花火大会を楽しんでいただきました。

七月二十九・三十日の豪雨の後、加茂川河川敷は十数cmの土砂や流木で埋まり、恒例の越後加茂川夏祭りの開催が危ぶまれましたが、会場となる市街地河川敷や両岸をつなぐ仮橋は、当日までに整備されました。加茂川では、流されてきた土砂で河川敷との高さが小さく、水深の浅い場所では、遊ぶ子どもたちの姿が多く見られました。



日中のイベントは、ウキウキ桃釣り大会から。気温三十℃を超える猛暑の中で、毎年、越後加茂川夏祭りの名物イベントとして子どもたちに大人気があります。流れてくる大きな桃を釣るのは少しむずかしいけれど、釣り上げる歓声があがっていました。

加茂川ダンス甲子園には、市内外から七つのダンスチームが出場して、元気っぱいのステップを見せてくれました。

夕日が橋の影をつくるころ、市



内の幼稚園・保育園の子どもたちが作った約五百個の灯ろうが川面をゆつくり流されました。午後六時四十分からは、左岸広場でよさこいチームと江戸みこしがいつしよに競演し、会場内を盛り上げます。そして、仮橋がつなぐ兩岸に大勢の人が集まると、大盆踊り大会が始まりました。加茂松坂の唄が響き始めると、たくさんの人も飛び入り参加して、加茂川をはさんで大きな踊りの輪ができあがりました。

約一時間の盆踊りを終えると

大花火大会に続きます。これまでより、三十分早まり、加茂川中央部分に仕掛けられた噴水花火を合図に午後九時までの三十分間に二百五十組・約千発の花火が次々に打ち上げられました。

越後加茂川夏祭りのフィナーレは、二尺玉三連発と昭和橋からJR鉄橋までの二キロメートル大ナイアガラ花火で飾られました。目の前を流れ落ちる光の滝に河川敷と加茂川兩岸を埋め尽くした人たちが、大きな歓声が上がります。暑い夏の二日を過ごすことができました。



# 総体結果



## 硬式テニス (ダブルス)

期日 七月二十四日  
会場 駒岡庭球場

【Aクラス】▼男子①中島昭・長谷川弘良(加茂ローン)②片岡謙作・袴田敏尚(加茂ローン)③小林勇・高橋富雄(グレイト)▼女子①志田美津子(グレイト)・中山佐和子(シテイサークル)②鶴巻ジュディ・二宮邦子(グレイト)③佐久美みゆき・大桃さおり(加茂テニス)

【Bクラス】▼男子①長谷川信・豊島和浩(田上テニス)②五十嵐誠・諸橋和也(加茂農林高校)③中村次男・小柳浩助(田上テニス)



## 水泳競技

期日 八月七日  
会場 市民プール

【小学生男子】  
▼50m自由形①大野一真31秒88大会タイ(加茂西小)②星野雅斗(加茂AC)③山田幹太(石川小)▼50m平泳ぎ①星野雅斗46秒34②安中佳樹(石川小)③増井勇太(加茂AC)



▼50m背泳ぎ①鈴木雅也39秒9(加茂AC)②安中佳樹③有本翔真(加茂AC)▼50mバタフライ①高野雄太1分3秒18(石川小)②小林優聖(加茂AC)▼100m自由形①田中海1分10秒60(加茂AC)②山田幹太▼100m背泳ぎ①鈴木雅也1分24秒59▼200m個人メドレー①大野一真2分53秒76大会新②田中海2分53秒77大会新▼200mリレー①加茂AC・a2分24秒31②加茂西小③加茂AC・b

【小学生女子】  
▼50m自由形①小嶋のどか34秒77

(加茂AC)②土橋輝(加茂AC)③野村茉央(石川小)、安中莉椰(石川小)▼50m平泳ぎ①土橋聖38秒68(加茂AC)②田辺祐妃乃(加茂AC)③野村茉央▼50m背泳ぎ①小嶋のどか41秒36②江平希(石川小)③安中莉椰▼50mバタフライ①中林祥子31秒80大会新(加茂AC)▼100m自由形①小林葵1分9秒34(加茂AC)▼100m平泳ぎ①土橋聖1分25秒72②皆川いろは(石川小)▼100m背泳ぎ①中林祥子1分15秒46大会新②江平希▼200m個人メドレー①小林葵2分50秒21②土橋輝▼200mリレー①加茂AC・a2分8秒39②石川小③加茂AC・b

【中学生男子】  
▼50m背泳ぎ①石原佳明34秒83大会新(加茂AC)▼200m自由形①石原佳明2分21秒22

【中学生女子】  
▼50m自由形①野村春乃29秒5大会新(加茂AC)②渡辺彩子(加茂AC)③相田美鈴(加茂AC)▼50m平泳ぎ①野村春乃37秒48大会タイ▼50m背泳ぎ①田口由重32秒52大会新(加茂AC)②渡辺彩子34秒47大会新③小林諒▼50mバタフライ①田口由重30秒19大会新②相田美鈴③久保瑞稀(加茂AC)▼100m自由形①齋



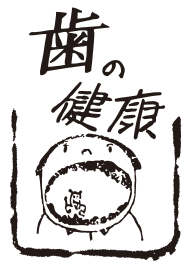
藤優里愛1分6秒85(葵中)②大湊彩映(K3)▼100m背泳ぎ①久保瑞稀1分19秒36▼200m自由形①齋藤優里愛2分25秒94大会新▼400mリレー①加茂AC4分22秒38

### 【高校一般男子】

▼50m自由形①青野剛太26秒66(K3)②大湊俊輔(K3)▼50m平泳ぎ①青野剛太33秒94②渡邊健太(K3)▼200m個人メドレー①渡邊健太2分31秒15

### 【高校一般女子】

▼50m自由形①相田春香29秒71(K3)▼50mバタフライ①今井翼40秒



## 歯は見！むし歯の正体

お口の中には、さまざまな細菌がいます。その中でも、むし歯の原因となるのは、主にミュータンス菌です。ミュータンス菌は、細菌のかたまり、プラーク（歯垢）の中に棲みついています。

そして、食べ物に含まれる糖質を栄養として生活し、どんどん増えていきます。そのときに、ネバネバした物質をつくり出して、歯の表面に付着します。同時に酸をつくり出して、この酸が歯を溶かしてしまうのです。これが、むし歯という歯の病気なのです。

酸が歯の表面のカルシウムやリンなどのミネラルを溶かす（脱灰）と、ツルツルした健康な歯に比べて、すりガラスのように白っぽくにごって見えます。

この状態を初期むし歯といいますが、この段階なら、だ液に含まれるミネラルが歯に戻る「再石灰化」を促進すれば、元の健康な歯に戻すことも可能です。

また、フッ素入り（フッ素化合物配合）の歯磨剤は、歯の再石灰化を促進し、歯質を強化するのに有効です。

むし歯って、

どうやってできるの？

■むし歯は三つの「たし算」でできます。

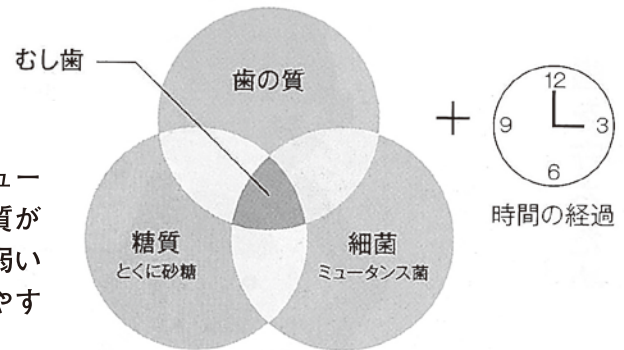
むし歯は「歯の質」「食べ物（糖質）」「細菌（ミュータンス菌）」の三つの要素が重なったときにつくられます。

①食事やおやつなど、食べ物を食べると歯の表面に食べかすが残ります。

②すると、お口の中にいる細菌

（ミュータンス菌）が、この食べかすに含まれる糖分を分解して、ネバネバした物質をつくり出し、他のいろいろな細菌を巻き込んで、細菌の巣となるプラーク（歯垢）を形成します。

③そして、プラークの中のミュータンス菌が酸をつくり出し、この酸が歯を溶かしてむし歯が発生するのです。



歯に棲みつくミュータンス菌は、糖質が大好き。歯質が弱いとむし歯になりやすい。

■むし歯を予防するためのポイント

- ①細菌のかたまりであるプラークを取り除くことが大切です。そのため、毎食後と就寝前に歯を磨くことが欠かせません。
- ②また、歯の質をむし歯になりにくい強い歯質にすることで。
- ③食生活を改善し、糖分などの摂取に気をつけましょう。

（加茂市歯科医師会）

59（加茂A C）

【壮年男子】

- ▼50 m自由形①小林誠 36秒98（加茂A C）
- ▼50 m背泳ぎ①小林誠 49秒97
- ▼50 mバタフライ①浅野真一 34秒70（加茂A C）
- ▼100 m自由形①浅野真一 1分10秒63

【最優秀選手賞】

- 小学生男子 大野一真（加茂西小）
- 小学生女子 小林祥子（加茂A C）
- 中学生男子 石原佳明（加茂A C）
- 中学生女子 田口由亜（加茂A C）



## 野 球

期 日 八月七・十四・二十一日

会 場 七谷野球場

【一般の部】

- 優 勝 Y A W A T A
- 二 位 八幡イーグルス

【壮年の部】

- 優 勝 赤谷
- 二 位 A O I

【中学生の部】

- 優 勝 葵中学校
- 二 位 加茂中学校

# 施粥の実施

## 加茂・上条などの例から

江戸時代後期の文政十一年（一八二八）の三条地震や度重なる水害・虫害などにより米が凶作となり、米不足になって窮民が世間に増えるようになった。

文政十三年（一八三〇）は越後の蒲原一帯で発生した虫害によって凶作となり、米価があがり、出回る米も不自由になった。上条商人の関金六が記した「年代記」には次のような記録がある。

「当年当国ノ虫付ニテ凶作、十一月四日ヨリ因冬廿三人ニテ十王堂ニテカユタク、安米直段五十文二七合」

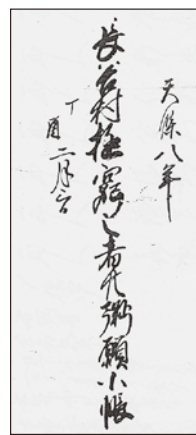
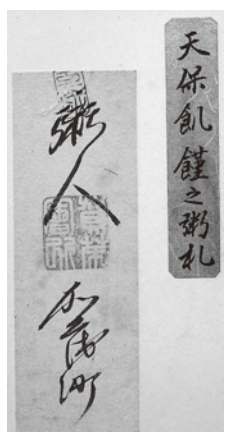
# 加茂の風土記

冬の十一月四日、窮民に対して粥炊きが上条新町の十王堂で、三軒の商人により行われたのである。商人の名は家印により示され、其は真木屋

遠藤太右衛門、其は関金六であるが△は不明である。三軒は当時新町の富裕な商人であった。新町の十王堂は現在の上条郵便局の道を挟んだ上手に位置し、十王庵とも呼ばれた庵寺で、庶民が集まる場所であった。この施粥は富裕商人によって行われたが、記載からはどの位の人数に、何日間、粥の炊き出しが行われたか詳細は不明である。

文政十三年庚寅年  
当年当国ノ虫付ニテ凶作  
十一月四日ヨリ因冬廿三人ニテ  
十王堂ニテカユタリ安米  
直段五十文二七合羽刻本庄  
ニテ要平米四百五十俵買行

十王堂での粥炊き（右）と加茂町の粥札（左）



長谷村の粥願書

ある。

町場での事例では加茂町でも施粥があったことが窺われる「粥札」が残っている。それは加茂の「小柳次郎作家文書」（加茂市教育委員会所蔵）にあり、「粥人 加茂町」とある、幅5cm、縦15cmほどの和紙の札である。「加茂会所」の角印が押され当時の加茂町役場が発行したものである。「天保飢饉の粥札」の添え書きがあるが、具体的な年号は不明である。加茂地域で一番の飢饉であった天保八年（一八三七）のものであろうか。飢え者はこの札と引き換えに粥を貰えたものであろう。

七谷の長谷村では、大庄屋に提出した極窮者への炊き出し粥の願書が残る。内容を見ると天保八年二月十日～三月晦日までの五十日の間に、七軒十四人を対象に、一日一人一合五勺の割合で行われた。

（関 正平）

# あいちとく

## 社会福祉費寄付金

▼故・樋口ヤイさんのご遺族から五万円

▼加茂88会から 十万円

## 加茂市へ

▼有限会社家具のまるやま（三条市）から 車いす一台

▼割烹よろづやから 錦鯉

▼加茂手まり会から 手毬二十個

（手毬は、コムソモリスク市子供代表団へ贈られました）

## 人口のうごき

8月1日現在  
世帯 10,197 (+17)  
人口 30,381 (-20)  
男 14,667 (-11)  
女 15,714 (-9)  
( )内は前月比  
(7月異動分)  
出生 13 (男7女6)  
死亡 24 (男15女9)  
転出 41 転入 32